

天溪 2025 年「ピレネー国境横断ハイキング 11 日間」

天溪 2025 年「ピレネー国境横断ハイキング 11 日間」を 7 月 16 日～7 月 26 日に行いました。

天溪の国境横断ハイキングはフランス・ガバルニー圏谷からサラデ小屋に向かい、叙事詩ローランの歌で有名な国境のローランの裂目を越え、スペイン・オルデッサ圏谷のゴリツ小屋に至り、さらにサンティアゴ巡礼街道の宿場村トルラに下ります。ここ数年ゴリツ小屋はメンテナンスから小人数の宿泊でしたが今年はフルオープンと聞き、予約を入れると既に満員。アルプスの山小屋もそうですが手配に悩まされます。そこで今年もサラデ小屋からブッシュャロ小屋に向かうルートに変更です。



(ローラン裂目 7 月 21 日)

○カルカソンヌからビニユマル山麓

先の「花のスイスアルプスハイキング」と同じカタール航空の成田発 17 時半を使い、バルセロナに朝到着。バスでスペイン国境を越えてフランスのカルカソンヌに移動。「カルカソンヌを見ずして死ぬ事なかれ」と言われる世界遺産の城塞都市をその日の内に見学。翌日は世界遺産オーシュのサント・マリー大聖堂、ルルドの泉を見学してから、嘗てスペインとの交易で栄えた温泉保養地のコトレに向かいました。

ハイキング初日は足慣らしでゴーフ湖を通り、フランス・ピレネー最高峰のビニユマル山(3298m)が望める所迄ハイキング。(天気今一歩) この時期、なでしこ、アイリス(アヤメ)、ヤナギランの花が野山を賑わせます。





○ガバルニー圏谷

世界遺産ガバルニー圏谷は円周 14Km。その中央にあり、ヨーロッパ最大と言われる落差 422mの滝まで圏谷左岸の山岳ルートを使ってハイキング。このトレイルは底部の川沿いを進む一般道と異なり人影が少なく静かなガバルニー圏谷が楽しめます。



(ガバルニ圏谷 7月20日)





(ガバルニー圏谷 7月20日)

○ローランの裂目

昨年同様にガバルニーからタンテ峠に車で上がり出発。氷河で大きく削られたU字谷の中腹に付いた登山道をトラバース気味に進みます。水量豊富な沢を横断し、登り詰めてリッジに出るとサラデ小屋、ローランの裂目が突如出現。サラデ小屋に荷物を置き、クランボンとストックを持ちローランの裂目を目指します。モレーン状の急坂を登り、中腹のテラスに出ると裂目の下に大きな雪田が出現。昼食を済ませ、雪田の急斜面に不安を抱きながら登り、さらにガレ場をよじ登ると思いのほか早く裂目のコルに到着。コルからフランス側のガバルニー圏谷、スペイン側のオルデッサ圏谷、両景色を満喫です。

※アルプスの山小屋含めバックパックを室に持ち込めない所が増えていますが、ご注意ください。



(ローランの裂目 7月21日)





(ガバルニー圏谷の雲海 7月21日)

※この写真はサラデ小屋で写した雲海の一コマで、雲の下がガバルニー圏谷です。この日の午後は終日こんな状態でしたので、ガバルニー圏谷の観光は重たい雲の下で行われたのでは？

○サラデ小屋からトルラ

昇る朝日に赤く染まるローランの裂目をカメラに収め、来た道をブッシャロ峠まで一端戻り、今度はスペイン側に下ります。ガバルニーからトルラに続くこの道はホタテ貝マークのサンティアゴ巡礼街道です。今年は夏の訪れが早いのか、辺り一面を黄色に染める通称「ハリネズミの花」は既に終え、遅咲きのエーデルワイスがトレイル脇に咲いていました。この花は石灰質の土壌を好み、この地方には群生が点在しています。

翌日はブッシャロ小屋からトルラに車で下り、今度はシャトルバスに乗り換えてオルデッサ圏谷へ。雷鳴が轟く中を「馬の尻尾」と形状で呼ばれる滝まで往復ハイキング。途中アイリスの群生が至る所に有り、今年はその多さにビックリでした。残るはバルセロナ観光です。



(朝日に赤く染まる裂目 7月22日)



(馬の尻尾滝 7月23日)



(トルラ村の協会7月23日)

○バルセロナ観光

宿泊ホテルが巨匠ガウディの設計したグエル邸の真正面にある ガウディホテル、最高のロケーションです！

ここを起点にサクラダファミリア、ピカソ美術館、バルセロナ市場を見学。更にドーム、カタルーニャ音楽堂、ラ・ペドレラ邸など時間の許す限りの市内観光でした。



(サクラダファミリア 7月 24日)



(グエル邸 7月 24日)

次回の天溪ツアーは少々お時間をいただき、以下のツアーに続きます。

「アンナプルナ内院 13 日間」 11 月 14 日～11 月 26 日

2026 年

「NZ ミルフォードトラクト Mt.クック 11 日間」 1 月 20 日～1 月 30 日

このツアーは現在満席です。

今後キャンセルが出るかも知れませんが、ご希望の皆様にはご迷惑をお掛けします。

天溪/赤沼